

◆競技方法

個人戦

- ・学年ごとに、16名でのトーナメント方式で行う。
- ・小学生の場合、男女混合とする。中学生は男子・女子に分ける。
- ・中学生の場合は、申し込み状況に応じて、学年を統合する場合がある。
- ・怪我などにより、途中競技が出来なくなった場合は棄権となる。代理の出場は認めない。

団体戦

- ・各クラスごとのトーナメント方式とする。
- ・選手3人+補欠2名の計5名のチームとする。
- ・選手交代はチーム内のみで行う。チーム外からの交代は禁止する。
- ・小学生は低学年、中学年、高学年、中学生は男子、女子に分けて行う。
- ・総当たり戦とする。チームの編成上、やむを得ず2名の参加になる場合でも可とする。
- ・オーダーは試合ごとの組み替えは可とする。試合途中での組替は認めない。

ポイント

技あり…5点 有効…2点とする。どちらかが10点に達した時点で、競技終了とする。

- ・蹴りに関して、甲蹴りの場合は、技あり程度の効果が認められる場合でも、有効止まりとする。ただし、脚刀蹴り(脛での振蹴)の場合は、技ありまで認める。
- ・上段の突きに関して、技あり程度の効果が認められる場合でも、相手に当たった場合(態勢上已むを得ない場合に限る)は、有効止まりとする。故意に当てたとみなした場合は、警告、注意、失格とする。
- ・個人戦の場合、ポイントが同点で競技終了した場合は、延長を行う。延長の場合、2点先取で競技終了とする。延長終了時点で、尚同点の場合は審判団の協議により優劣を決する。
- ・団体戦の場合、勝ち数及びポイントが同点引き分けで競技終了した場合は、代表者を選出して延長を行う。延長の場合、2点先取で競技終了とする。延長終了時点で、なお同点の場合は審判団の協議により優劣を決する。その場合の判定材料は代表戦のみとする。
- ・反則などの違反行為があった場合は、1回目は警告とし、2回目は注意とし5点減点、3回目は失格とする。また、マナー違反に関しても同様の措置を行う。あまりにひどい場合は、審判団の協議により、即失格とする。
- ・体格、体力、技量の差が歴然としている場合は、審判団の協議により競技を中止することができる。その場合は、優勢な方にポイント10点を与え競技を終了する。

時 間

全てランニングタイムとし、以下のように定める。

資格	時間	延長戦
小学生 1～2 年生	1 分	30 秒
小学生 3～4 年生	1 分 30 秒	45 秒
小学生 5～6 年生	1 分 30 秒	45 秒
中学生	2 分	1 分

※時計は基本的に止めないが、必要があれば主審の判断で時計を止める事ができる。

防 具

- ・ 防具については、ヘッドカード(前面にカバーがあるもの)、連盟公認ボディプロテクター(二重胴)、ファウルカップ(男子のみ)、拳サポーターの4点を着用する。ただし、小学生の胴に関しては、従来使用のもの(1枚胴・表面の柔らかいもの)の使用も可とする。
- ・ 防具は原則1人1セット持参とするが、団体戦の場合は2セットあれば可とする。
- ・ 拳サポーター以外のサポーター、テーピング等の使用を認めない。特別な事情がある場合は、大会実行委員会に申し出て許可を得る事。許可が出た場合は、使用可能とする。

ルールの

- ・ 上段への加撃は、ヘッドガード前面への直突きを原則とし、全て寸止めとする。裏拳打ち、鉤突き、振突き、及びヘッドガードの側面部、背面部への加撃は禁止する。また、上段への蹴りはすべて禁止する。
- ・ 胴への突き、打ち、蹴りは可とする。肘当、掌拳打ち、膝当ても可とする。
- ・ 禁止技、行為は以下の通り。
 - ◇下段への蹴り技、刈足
 - ◇掬投げ、掬首投げ、虎倒し
 - ◇投げ技全般
 - ◇相手に故意に継続的に組み付いたり、袖や襟を掴むこと
 - ◇倒れた相手への加撃
 - ◇金的への加撃
 - ◇組み付いてからの投げ技、腰や背に乗せての投げ技
- ・ 足底での足払いは可とする。ただし、膝関節から上は禁止する。
- ・ 体構えは少林寺拳法の構えとする。
- ・ 危険と認められる技については、審判員の判断で使用を制限することができる。

以上、連盟規則抜粋

- ・ 攻守分けずに自由攻防とする。
- ・ 小学生 1～2 年生に関しては、上段突きのポイントをとらない。中段のみのポイントとする。ただし、フェイントは可とする。

◇大会参加申し込みについての注意

- ・ 全員参加の観点から、個人戦と団体戦の重複出場は基本的に不可といたします。ただし、個人戦に出た拳士が団体戦の補欠に入ることは認め、その場合 同チームの選手が怪我などで続行不可能となった場合のみ団体戦への出場を認めます。また 1 チームの編成がどうしても 2 名以下になった場合は選手としての出場を認めます。
- ・ 必ず個人戦の出場者から優先的に決めて頂くようお願いいたします。
- ・ 団体戦は試合が出来ない拳士を出さない為に、試合ごとのオーダー組替えをお願いいたします。
- ・ 個人戦は 3 名の申込みになりますが、16 名の枠があるために、各支部 2 名の出場は確定しておりますが、残り 1 名に関しては実行委員会での抽選の結果出場出来ない場合もあります。あらかじめご了承ください。その場合は連絡をいれますので、団体戦での出場登録をしてください。
- ・ 団体戦は必ず 3 名の枠を埋めてから、次のチームを編成してください。2 名の 2 チーム出場などは認められません。補欠登録に関しては各支部の判断に委ねますが、チーム外からのメンバー交代は出来ませんのでご注意ください。団体戦は何チーム参加でも構いません。

◇運用法大会開催についての徹底周知事項

- ・ 必ず運用法の修練を各支部で行って下さい。修練をせずに本大会に参加することがないように各支部長の責任において、徹底した指導をお願いいたします。
- ・ 明らかに体力的に弱い子や、精神的に弱い子の出場は避けて下さい。度胸試的な意味合いでの出場は禁止いたします。日頃の道場での修練の結果、各自に自信がついた時にこそ出場させて下さい。
- ・ 運用法を行う上での拳士、保護者の礼儀、マナーの徹底をお願いいたします。選手に関しては減点を行うか、悪質な場合は競技中止を宣告いたします。また、応援などに見苦しいものが見受けられた場合にも、大会実行委員会、審判団で協議の上、選手より減点、もしくは競技中止を宣告いたします。こういった事態にならないように、徹底した周知、指導をお願いいたします。